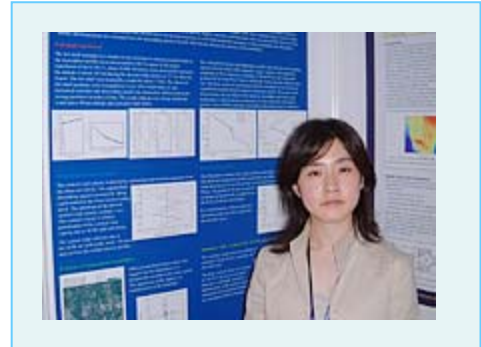


第36回COSPAR総会出席報告書

東京大学 大学院理学系研究科
地球惑星科学専攻 博士課程5年
小泉 宜子

このたび貴財団法人宇宙科学振興会の援助を受けて、2006年8月16～23日にかけて中国の北京で行なわれた第36回COSPAR総会に出席してきました。COSPAR総会は、宇宙空間科学研究委員会(COSPAR:Committee on Space Research)の主催により2年に1度開催されるもので、気象・気候から地球・惑星大気、太陽系プラズマ、天体物理など多岐にわたる研究分野の世界中の研究者が参加し、宇宙に関する研究の成果が発表される国際会議です。



私の研究は、ロケット実験でチャフというアルミ箔を散布し、チャフの動きから高度90km付近の風を測定するものです。この領域では、風を高精度で観測する手法は限られており、特に鉛直方向の大気の運動は理論シミュレーションで示されていますが、観測はほとんどありません。この国際会議では"Small Scale Processes in the Mesosphere/Lower Thermosphere Region"というセッションで、チャフ実験の解析結果から不安定現象に伴う鉛直風が観測されたことについて発表を行ないました。

このセッションでは中間圏・下部熱圏での最前線の研究を取り扱っていて、この分野をリードする研究者がお互いの発表について活発に議論を交わしていました。セッション名が"スモールスケール"だったためかはわかりませんが、会場の中でも最も小さい教室を利用して口頭発表が行なわれたのですが、大変盛況で補助の椅子を使っても足りず、立ち見の人が出るほどでした。

この満員状態のなか、大変緊張しましたがポスター発表の宣伝をかねた口頭発表を行ないました。この時には時間の関係で質疑が行なわれなかった分、お昼休みをはさんでのポスター発表では、鋭い質問をいくつか受けました。

渡航の様子 そのなかでも過去に行なわれたチャフ実験の解析をおこなっている研究者の方に、私の研究について興味深く聞いていただけたことは大変励みになりました。またポスターを縮小印刷して置いておいたところ、気がつかないうちにほとんどなくなっており、自分の研究に対する手応えのようなものを感じることができました。

また今回のCOSPAR総会では北京理工大学がLOCで行なわれているため、多くの学生さんが受付や会場係から会場とホテルを結ぶシャトルバスの案内まで各所で働いておられました。このような大きな国際会議の運営や外国人とのコミュニケーションなど、学生さんにとっては大変貴重な体験だと思います。どなたも常に真摯に対応しておられて好感が持てたのと同時に、多くの外国人研究者と触れ合える学生さん達を羨ましく思いました。

最後になりましたが、このように有意義な国際学会へ参加する機会を与えてくださった貴振興会および関係各位に心よりお礼申し上げます。